

●第6回全国路地サミット（10月25日）の様子

第6回全国路地サミットが長野市で開催されました。当日の様子をお伝えします。午前には150名を越す参加者により善光寺界隈でまち歩きを行い、午後は善光寺明照殿にて200名以上の参加によるフォーラムが開催されました。

フォーラムでは主催者挨拶のあと、観光庁観光地域振興部地域競争力強化支援室長から来賓挨拶があり「住んでよし訪れてよしの国づくり」をめざすと話され、続いて長崎さるく博プロデューサーの茶谷幸治氏から、パビリオンの要らないまち歩き博覧会の持続性などについて基調講演がありました。

第1セッションでは6地区の事例紹介があり、それは「昨年度のサミット開催都市・静岡県新居町の文化財を生かしたまちづくり」、「路地を演習科目にしている大分大学のフィールド・別府市中心市街地」、「究極の日帰り観光地・神楽坂のしつらえの路地」、「毎月1回行っているモーニングウォークの場・飯田市の裏界線」、「路地界隈の景観向上のための手厚い補助事業を行った諏訪市」、「次回の開催予定都市・神戸市の路地をいかした近隣住環境計画」でありました。第2セッションは地元発表であり、善光寺界隈からは、映画・転校生で「50年後の長野の子どもたちに見せたい映画」とするため長野の路地ばかりを撮影した大林監督のこだわりが紹介され、一方の松代からは、エコール・ド・まつしろ（松代の学校）という住民主体のネットワーク組織の活動により観光客が増えたことなどについて説明されました。

第3セッションはパネルディスカッションで、パネラーと会場からのたくさんの意見で話は盛り上がりましたが、最後の締めは、やはり全国路地のまち連絡協議会世話人の今井晴彦氏であり、県下の路地を繋ぎまると観光化するという「信州路地の旅」や「長野路地博」を提案し、このサミットを契機とした長野への新たな展開を示唆されました。

高尾利文（第二計画部）

●続く明和マンション問題（その1/2）

国立市における「明和マンション問題」は、住民による建築禁止仮処分申立（棄却）を含み、4つの係争をもたらした。住民から明和地所への民事訴訟（住民敗訴）、住民から東京都へ行政訴訟（住民敗訴）、そして明和地所から国立市と市長を提訴した「地区計画、建築条例の無効の確認及び4億円損害賠償請求」である。平成20年3月11日、最高裁が国立市および市長の「補助参考人」による上告を棄却することによって、平成17年12月19日の高裁判決が決定し、ここで終焉したかのように見える。

経緯を振り返ってみる。平成11年、大学通り沿道東京海上跡地における高層マンション計画を知った周辺住民と桐朋学園、以前から国立の景観問題に取り組んでいた市民団体等が、要綱に定められた範囲（2H）を超えて集結し、9/22「国立市景観条例に即した計画に変更するよう働きかけを」という陳情5万人署名を市議会に提出した（当時人口7万人）。市は、8/31～11/6の間で近隣説明会を開催するよう明和地所を指導、しかし説明会は11月まで開かれなかった。地元住民は、地区計画の説明会開催を市に申し入れ、10/27に素案の検討を開始、11/15に明和地所を含む地権者の82%の賛同署名を添えて「地区計画」の要望書を提出した。さらに、「地区計画の早期条例化を求める署名」を68,928名分集め、これを受けて国立市は平成12年1/21地区計画の都市計画決定、1/31地区計画の建築条例議決、2/1建築制限条例を公布・施行した。一方明和地所は、平成11年12/31に建築確認を申請し、平成12年1/5、都から建築確認済み証が公布された。

文責者：株式会社 草建築工房 高田 啓子  
紹介者：高尾利文（第二計画部）

●早稲田大学ハノイ特別講義

去る9月の中旬、早稲田大学の学生12人がハノイでの1週間の特別講義のために来越しました。学生たちはベトナムの大学生6人と一緒に4つのグループに分かれ、ハノイ市内の交通・都市計画を対象とした現地調査を行い、その成果を発表するのですが、私たちも研修の助手として参加しました。

グループ内の議論では、ベトナムの学生達は少数にも関わらず最初から積極的で、自国の問題点について自分の考えをどんどん述べますが、日本の学生の方は現地の状況が分からず、英語をあまり話せないということもあって、聞き手に回るばかりです。しかし、途中の現地視察を通じて互いが同じ状況に身を置き問題意識を共有することで、電子辞書を開くばかりで防戦一方だった日本の学生もようやくベトナム人学生の発言を理解しはじめ、逆に日本で経験や知識を頼りにどんどん意見を出すようになりました。

この時には伝えたいことを身振り手振り、絵を描きながら、またKJ法を用いるなど、積極的に意思疎通を図ろうとしていたグループが実のある議論をしていたような気がします。対話にはやはり語学能力とは別に、伝えようとする意気込みが重要なようです。

最後には刻限が迫り、どのチームも駆け込みで成果をまとめていましたが、その発表には彼らの議論の痕跡を感じ取ることができました。言葉の制約もあり、意見を十分に言い合えたとは言えないでしょうが、それでもお互いの考えをある程度理解し合えたようです。一方では最後まで意見が対立していた点もありましたが、うまく整理され、日越の学生の考え方の違いを取り込んだ興味深い発表になっていたと思います。予備知識が少ない中臨んだ学生が多かったようですが、短期間で観察し、議論し合い、まとめ上げる力には感心させられました。

坂井孝典、新井裕子（海外室）

---

発行責任者：代表取締役 庄山 高司  
事務局：株式会社アルメック 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almec.co.jp](mailto:hotnews@almec.co.jp)  
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

---

Copyright 2008 ALMEC Corporation. All rights reserved.